■今月の特選句

2020 年 7 月

ストローの穴ある手づくりマスクかな

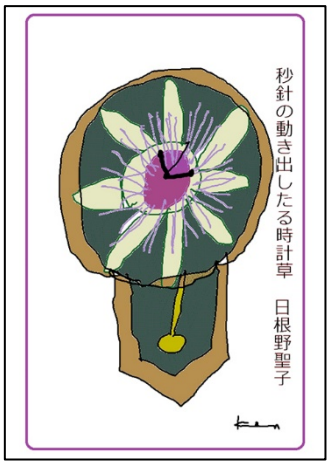
南とんぼ

アイデアとしては抜群だね。安倍さんがこれを配っていれば支持率も上がったかも。ただ、日本人はユーモアが分からんからなあ。

千手観音百足十匹と握手

土屋泰山

虫ケラでも濃厚接触してくださる観音様に感動した。「千」「百」「十」の数字、「手」「足」の文字で遊んでいるのもいい。軽く作って重みのある作品。

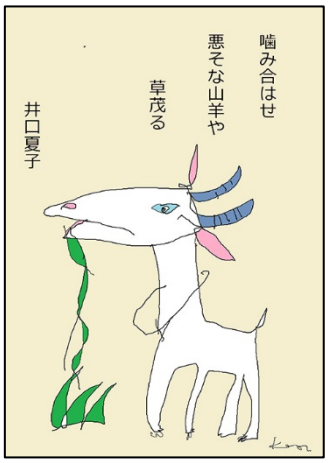


秒針の動き出したる時計草

日根野聖子

文芸は本当のような嘘を書いてこそ値打ちがある。この句もそんな作品と思ったが、どうやら嘘ではないらしい。一夜にして秒針は一周するのだ。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。



噛み合はせ悪そな山羊や草茂る

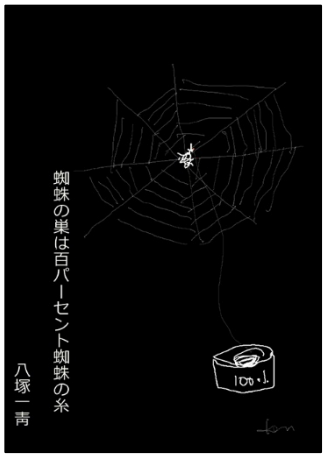
井口夏子

俳句の基本は観察力にある。写生という奴だ。それは表現力に依存する。それを古人は「ひねり」と呼んだ。ひねりのコツは頭をひねることである。

これ以上望まない田水ひたひた

鈴木和枝

滑稽句の技法の一つが「擬人化」である。擬人化は、作者が対象と一体化した時に生まれるが、この句の「望まない」のは、作者であり田である。



蜘蛛の巣は百パーセント蜘蛛の糸

八塚一青

誰もが知っている当たり前のことを誰も俳句にしていなかった。不思議に思う心が無かったからだ。知っていることと感じることは別なんだね。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

空耳に呼び声聞こゆ金魚売　荒井　類
・・・懐かしい声耳は忘れず

のこりぶん確かめながらラムネ飲む　小林英昭
・・・たんびに玉を上下させつつ

若葉してもう金曜はあすは土曜　山本　賜
・・・誰でも時に追ひ越されるもの

マスク生活口紅の出番なし　石塚柚彩
・・・くちびるとても寂しいことよ

明易しまだ読み切れぬ「夜明け前」　峰崎成規
・・・読み終へた時しらじら明ける

音楽家の理想の髪型入道雲　遠藤真太郎
・・・ベートーベンをイメージしたか

まくなぎのゐて進退の窮まれり　工藤泰子
・・・飛び上がつたら解決するで

変態は大変身なの夜の蝶　泉　宗鶴
・・・蝶は華麗に人は奇妙に

誰にでも等しく風を扇風機　稲沢進一
・・・首振りモード同じ速さで

大仏の背すじ伸びます青嵐　大林和代
・・・黒南風来れば首すくめるか

空蝉の背を割る音に耳澄ます　百千草
・・・内緒話で鍛へし耳で

新宿生まれ新宿育ちの揚羽蝶　龍田珠美
・・・黒がテーマのトータルファッション

初夏の肌や木綿を恋しがる　吉川正紀子
・・・昔人間で素朴が一番

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

＊今月の特選句･秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

浪曲の節ののびのび青田風	相原共良
汗の妻水鏡して手櫛かな	相原共良
でで虫やかるがる背負ふ家一軒	相原共良
屋台骨行かねばならぬ炎天下	青木輝子
遺産分け絆が切れて五月闇	青木輝子
羽抜鶏親より子より古女房	青木輝子
我は老人君は老鶯恙なし	赤瀬川至安
「鬼蜘蛛」と呼ばるる程の優男	赤瀬川至安
叩かるる昼寝の鼾を嫌がられ	赤瀬川至安
十万円はいつ届くやら栗の花	荒井　類
九条を守ると誓ひ武具飾る	荒井　類
暗き世に送るエールや蛍火は	井口夏子
道をしへ辿り着けない道もあり	井口夏子
もてあます青春一人ファッションショー	池田亮二
母の日やシングルも未婚もカーネーション	池田亮二
非日常が日常となる五月闇	石塚柚彩
間の悪いアベノマスクの使い道	石塚柚彩
老鶯や相見互いのしぶい声	泉　宗鶴
河童笛下手な横好き川流れ	泉　宗鶴
羨まし銀のスプーンを咥へし人	伊藤浩睦
売つてちようだいと言はれ清和にピアノ引く	伊藤浩睦
ゴールデンバットは不味し蚊食鳥	伊藤浩睦
夏草や行きゆきて獣道	稲沢進一
燕の巣ＳＴＡＹＨＯＭＥとなりにけり	稲沢進一
子子（ぼうふら）のくの字くの字の縦泳ぎ	稲葉純子
誰にも言へず蛇苺食べたこと	稲葉純子
夏場所は新型コロナに打つちやられ	稲葉純子
緑陰に女三人長話	井野ひろみ
推敲は歳時記抱へ昼寝へと	井野ひろみ
雨時刻予報通りや梅雨に入る	井野ひろみ
バスの中蜘蛛いそいそと糸紡ぐ	上山美穂
草笛の世界に逃避畦に立ち	上山美穂
気の強いオナモミ服に食らひつく	上山美穂
風五月墓標にまとひつつ薫る	梅野光子
スカートたくし上げ水際の足光る	梅野光子
入学を待つコロナ禍のランドセル	梅野光子
西瓜喰う夫の態度もＬサイズ	遠藤真太郎
心臓に育毛剤の毛虫かな	遠藤真太郎
クリムトの絵は接吻のまま四月尽	太田史彩
蜜吸ひて花粉色なる鵯の嘴	太田史彩
ディスタンス埋められぬまま夏来たる	太田史彩
おのが影車輪におさめアロハシャツ	大林和代
小悪魔なキリンの眼夏日さす	大林和代

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事･写真･イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写･転載等を禁じます。

燕の子大きな口を揃へたる	小笠原満喜恵
寝ころんだ蓮華畑はどこへやら	小笠原満喜恵
茅花摘む腹の足しにはならねども	小笠原満喜恵
紅娘（てんとうむし）みつけ喜び今も女子	岡田廣江
体長二ミリの蜘蛛ブランコの修行中	岡田廣江
母の日を大きく開き工芸茶	岡田廣江
六月は投句自粛でひとり一句	小川飩太
レジを待つ等間隔の薄暑かな	小川飩太
初夏の地震は夜討ち朝駆けで	小川飩太
遍路旅十万円で大丈夫	金城正則
再編成の番組ばかり更衣	金城正則
金剛経でコロナ退治や秋灯	金城正則
どう見ても子ども用マスクもごもごと	久我正明
舐めまわしソフトクリームを股に受く	久我正明
たんぽぽのあくびつぎつぎつたわって	久我正明
黄金の鯉の大口風青し	工藤泰子
牛蛙ガッキガッキと合奏す	工藤泰子
闇に散り敷く白薔薇の鱗かな	桑田愛子
ソーダ水姉も妹も舌が青	桑田愛子
でで虫と私コロナの世を生きる	桑田愛子
これが滝なんてのも入れ四十八	小林英昭
天井の守宮甲賀かはた伊賀か	小林英昭
自粛していたのに鳴くや時鳥	佐野萬里子
雨蛙のつやつやの肌羨まし	佐野萬里子
実豌豆烏に啄かれ収穫す	佐野萬里子
盗み食ひした星を知る金魚かな	壽命秀次
Ｇカップ泳ぐ気の無し小布ビキニ	壽命秀次
筍が顔出し出番と腰伸ばす	壽命秀次
ものぐさのこれみよがしに昼寝かな	白井道義
髪洗ふことに徹して閉ぢこもる	白井道義
母の日やはばかりながら母強し	白井道義
夏空へジェット六機の軌跡かな	鈴鹿洋子
青い灯と拍手の波や聖五月	鈴鹿洋子
抱いてみて分かった春キャベツ	鈴木和枝
無言で二メートル間隔に慣れて立つ	鈴木和枝
走り梅雨今日の日時計日曜日	髙田敏男
合コンや向う岸から恋蛍	髙田敏男
疫病に霞ヶ関は夏の霧	髙田敏男
竹矢来なき軟禁や夏に入る	高橋きのこ
かにかくに夫によく似し山椒魚	高橋きのこ
中元におしゃれマスクの届きたり	高橋きのこ
児を外へ連れても行けぬ子どもの日	竹下和宏
蛞蝓と根気比べか家籠	竹下和宏
塞ぎ込むビル街に鳴く鴉の子	竹下和宏
経路不明のままに梅雨に入る	龍田珠美
コロナ禍や消毒液に酔う暮春	龍田珠美

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

若葉風ウイルス用のマスク買ふ　田中　勇
若葉風コロナを飛ばしてくれまいか　田中　勇
コロナ禍を逆手につかむ立夏かな　田中　勇
コロナ忘れ葉桜下のリフレッシュ　田中晴美
激太り嫁ぎ先なき葉牡丹の　田中晴美
横断の蛇を跳び越す大勝負する　田中晴美
子どもの日乗車禁止の縄電車　田村米生
恋人も距離置く茶店アイスティー　田村米生
麻服のしわと比べる顔の皺　田村米生
三ヶ月（みつき）ぶりのショートカット髪洗ふ　月城花風
縁切れぬ傷つけ合ふも玉葱と　月城花風
泳ぐほど乾く身体に水補給　月城花風
ひとりでは何にもできない心太　土屋泰山
薫風の吹き渡りたる豚舎かな　土屋泰山
みつばちの三密をする暮らしかな　西をさむ
初夏の夜汽車は恋を捨てに行く　西をさむ
子（ね）の星のここよここよと梅雨の空　西をさむ
紫陽花も彩度を落とし自粛気味　花岡直樹
太っても増築自在蝸牛　花岡直樹
どのビアも泡を磨いて準備中　花岡直樹
山開き先づはドローン一番乗り　久松久子
イケメンの髪に実桜アプローチ　久松久子
涼み舟首を竦めて橋くぐる　久松久子
軽トラに乗つて嫁入り早苗たち　日根野聖子
寝返りを左右に一度明易し　日根野聖子
風薫るなり再会のハイタッチ　廣田弘子
濃厚接触避けて泳ぐや鯉のぼり　廣田弘子
咳一つ吾から人は離れゆく　廣田弘子
春の風邪今度ばかりは命懸け　細川岩男
桜前線粛粛と無観客　細川岩男
春と言うに人間さま巣籠り　細川岩男
母の日に箱いっぱいの柄マスク　南とんぼ
ストレスの沸点真近梅雨に入る　南とんぼ
エレベーター未必の故意の香水禍　峰崎成規
梅雨最中不眠不休の納豆菌　峰崎成規
読点のやうな手つきやさくらんぼ　椋本望生
プール出る鉄梯に腹乗せて　椋本望生
大仰に転ぶ臀部の天瓜粉　椋本望生
梅雨入や今日じいちゃんの誕生日　向田将央
母さん絶叫ミミズを贈られて　向田将央
名を尋ねられ泥んこの田植の子　向田将央
双六の一回休み富士登山　村松道夫
うつならむ自粛自粛の五月かな　村松道夫
登校のできず遊べずこどもの日　村松道夫
夏帽子少し派手なる俄か農　村山好昭
くちなはと目があう畔の曲がり角　村山好昭
ベンチにも入れず夏の終りけり　村山好昭

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

退屈な日々懐かしや杏煮る	百千草
家系図に数多なる染み夏落葉	百千草
ハラハラや今日は燕の初飛行	森岡香代子
はやり病に時間をもらひ更衣	森岡香代子
葱坊主ステイホームをしてる間に	森岡香代子
心太ゆつくり食べる難しさ	八木　健
梅雨入を過去形で言ふ気象台	八木　健
手で植える田植を熱写カメラマン	八木　健
途中から楽しくなつて草を刈る	八塚一青
父の日を祝われ明日は月曜日	八塚一青
早苗饗の浪曲消化不良なり	柳　紅生
文豪の眠りを解きぬ夏季講座	柳　紅生
太陽を核にパラソル開きけり	柳　紅生
母の日に届きし花の香の充満	柳澤京子
鬼房の小径を散歩夏初め	柳澤京子
タンポポや石碑を囲み五十本	柳澤京子
暮れるまで忘我の堺溝浚え	柳村光寛
わが生は迅速無常半夏雨	柳村光寛
輪番は敵わぬものよ草むしり	柳村光寛
薄暗きテレワークの部屋紅の花	山内　更
蚊遣火や狼煙のごとく煙立つ	山内　更
梅雨寒し段ボールただ溜まりゆく	山内　更
失くなりし居場所を探して夏ころな	山岡純子
母の漬けたる青梅のしょっぱき	山岡純子
断捨離の部屋あぢさゐ揺れてゐる	山岡純子
薫風に吹かれるままにごろ寝かな	山下正純
花愛でし不要不急と人の言ひ	山下正純
世間ではコロナ鴎のスイと飛ぶ	山下正純
ホケキョーは園児の口真似若葉風	山田真佐子
巣作りの鳩にベランダ狙はれる	山田真佐子
コロナとの共存といふ更衣	山田真佐子
舞台上よく出来ている糸柳	山本　賜
どこに置く筆立にさす風車	山本　賜
出不精に追討ちかけし走り梅雨	横山洋子
初物と愛でられ主役のへぼきゅうり	横山洋子
間隔をあけて真直にねじり花	横山洋子
炎天を走った後の水うまし	吉川正紀子
恰好よくなりすぎたかもサングラス	吉川正紀子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

捨て畑に芽吹くは健気青胡桃	吉原瑞雲
こもり居て覗き合うてる金魚鉢	吉原瑞雲
田草取り深くかけよは婿いびり	吉原瑞雲
弾丸となりて烏へ親燕	渡部美香
二の腕を隠しきれないレースかな	渡部美香
指先へくすぐったいな天道虫	渡部美香
蘭鋳に内緒話を聞かれけり	和田のり子
曲者よ目眩ましてふ術もつ蚊	和田のり子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。